

腎臓病教室に 参加しましょう

いまや慢性腎不全で透析療法を受けてみえる方は日本全国で24万人にもおよび、当院でも年間40名ほどの方が新たに透析導入されています。

腎臓の病気は初期の段階ではほとんど無症状で、進行してきた時には既に打つ手がないというのが現状です。できるだけ、早いうちに、専門医に相談することが大切だと思いますが、なかなかそのタイミングを担当医の先生に尋ねにくいなどの問題があります。

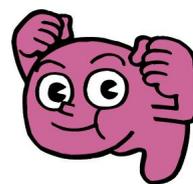
5分間の外来の診察では、十分な情報を得ようと思っても、後で待っている患者さんたちに迷惑かけられないと思うとなかなかゆっくりと話が出来ないというのが、お互いの本音だと思います。私自身も、外来では、できるだけ要点をしぼって患者さんに話をしているつもりですが、本当に必要なことをわかって帰っていただけたかどうか不安な時があります。

また、腎臓病は糖尿病や高血圧を基礎疾患にしてみえる方も多く、生活習慣病の要素が多分にありますから、薬だけで短期間に治すことはできず、自分自身の腎臓の状態にあわせて、食事や運動など日常生活を多方面からみて治療を考えなくてはなりません。

少しでも早い時期から腎臓病のことを知っていただける場を作らなければいけないということで始めたのが腎臓病教室です。今年で5年目になりますが、まだ、ご存知でない方もいらっしゃるかもしれません。

<腎臓病教室は、効率的な 情報収集の場です>

病気のこと。薬や食事のこと。医療費のこと。どこに相談を持っていったらよいのかお悩みの方も多と思います。また、お医者さんの言っていることは専門用語が多くてなかなか解りにくいと思います。しかしながら、基本的な知識をおさえておかなければ、どうしてもわからない場合もあります。検尿で異常がみつかった方から透析導入された方まで、腎臓病に関わっている病院スタッフができるだけわかりやすいことばで、自分の担当している分野の解説や最近の話題を、年3回（7月、11月、2月）に分けて3日間にわたって提供しています。



(次のページに続きます)

〈腎臓病教室は、横のつながり を確認できる場です〉

病気になると誰でもが悩めますが、ひとりで抱え込むと一層苦しくなります。まして慢性の病気であれば、長い闘病生活の中でいろいろな悩みが生じてきます。そんな時、周りにも同じような悩みを抱えた人がいることを知ると勇気づけられることがあります。ひとりで悩んでいても問題は解決されません。

病院はお医者さんだけで成り立っているところではありません。多くのスタッフがみんなであなをささえてくれています。そうしたつながりを感じていただければ、希望ある未来がきっとみえてくると思います。

具体的な内容は、院内掲示のポスター、広報いなざわ、病院ホームページ (<http://www.city.inazawa.aichi.jp/hospital>) をご覧下さい。

一人でも多くの方に参加していただきませう、スタッフ一同こころよりお待ちしております。

(内科部長 宮川幸一郎)

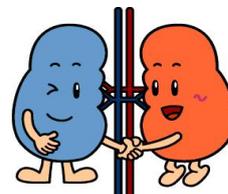


3 病棟 4 階看護チーム紹介

当病棟は病院全体の西側の4階にあり、南側の病室から見る景色は素晴らしいと患者さんから好評です。談話室は南側で日当たりも良く明るく広い空間があり、気分転換になり、面会時間の憩いの場となっています。

3病棟4階は腎臓病の患者さんが主に入院しています。急性看護から、高齢者患者(75歳以上)が75%以上を占め、寝たきりの患者さんに、栄養・清潔・排泄・移動の面で全面介助の必要な患者が多いのが特徴です。

私達看護師は、明るく親切をモットーとし、看護に全力投球しています。看護方式は固定チームナシング継続受持制です。入院から退院まで良い関係の中で看護が出来るように、責任を持ち同じ看護師が看護をしています。そして、安全で安心した入院生活を送って頂ける環境作りに努めています。



現在NST(栄養サポートチーム)のモデル病棟として頑張っています。また、血液浄化センター・医師・薬剤師・検査技師・栄養士・ソーシャルワーカーと協力し、腎臓病教室を開催して5年目となり、自己管理の大切さを指導しています。延べ1,000人以上の患者さんや家族の方が受講しています。稲沢市の広報“いなざわ”やインターネット等で紹介しています。皆さん気軽に参加して下さい。

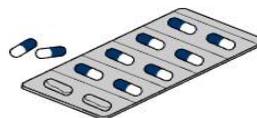
10月から、院外処方になり、お薬のもらいかたが変わりました

平成16年(2004年)10月1日から、稲沢市民病院でも医薬分業をおこないます。これは厚生労働省の方針に沿って実施するものです。

患者さまは医師が発行した処方せんにより、どこの保険薬局でも調剤してもらうことができます。複数の医療機関や診療科を受診している方は、いつも調剤してもらう薬局（かかりつけ薬局）を決めて調剤を受けることをお勧めします。かかりつけ薬局は、あなたの薬に関する記録を保管しているので、他の病院や診療所で出された薬と重複していないか、危険な飲み合わせがないかをチェックすることができます。これにより、患者さまはより安心してお薬を服用することができます。

医薬分業の開始に伴い、病院の薬剤師は病棟に出向き、入院患者さまの服用している薬についての説明をしたり、抗癌剤の調製や注射液の混合をおこなうなど、入院患者さまを中心とした医療サービスの向上に努めることとなります。より身近になる薬剤師にご期待下さい。

薬剤部



産科休診のお知らせとお詫び

突然ですが、産婦人科医師（全国的に激減中）確保困難により、7月半ばより産科（分娩、妊娠関連疾患）診療を当分の間休診とさせて頂きたく、お詫びを兼ねてお知らせ致します。急なことにて周知期間も設けることができず、本当に申し訳ありません。当面は、一人医師勤務で婦人科外来のみ細々と継続の予定です。そのため緊急の患者さんは他の病院へ紹介させて頂くこととなりますので、ご理解ください。

産科は、訴訟の増大や賠償金の高額化、また昼夜を問わず緊張を強いられる3K仕事であることなどから希望者が少なく（医学部新卒の3～4%）、途中で他科へ転向する者も非常に多く、残された者が更に過重労働となり疲弊して辞めて行く、という悪循環に陥っています。これは全国的な趨勢（アメリカなどでも同様の傾向です）で、産科を扱う病院の統廃合、機能分化が模索されています。稲沢市民病院 産婦人科

稲沢市民病院ニュース 第11号

発行日 平成16年11月1日発行

発行元 稲沢市民病院

〒492-8510 稲沢市御供所町1-1

※ ご意見をお待ちしています

電話 0587(32)2111

ファックス 0587(32)2151

電子メール hospital@city.inazawa.aichi.jp